

武生商工会議所
管内事業所景気動向調査 平成29年10-12月期

調査期間 平成29年12月8日～12月18日

調査票配布数 496 件

調査回答件数 108 件

回収率 21.8%

今期：平成29年10-12月期 前期：平成29年7-9月期 来期：平成30年1-3月期

(1) 業種・従業員規模

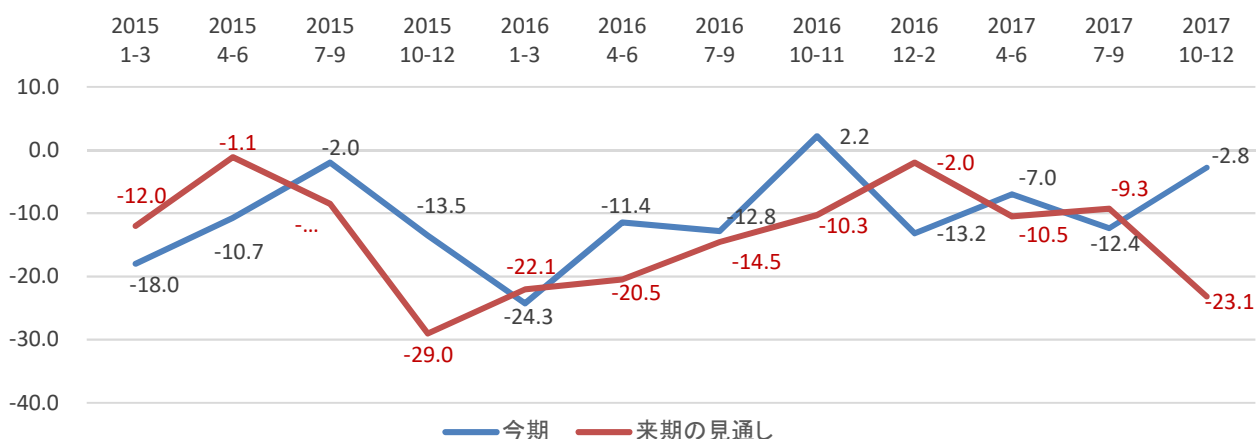
	①	②	③	④	⑤	無回答	合計	割合
	5人以下	20人以下	50人以下	100人未満	100人以上			
①製造業	22	3	0	0	0	0	25	23.1%
②卸売業	19	0	0	0	0	0	19	17.6%
③小売業	19	1	0	0	0	0	20	18.5%
④飲食・サービス業	24	0	2	0	1	0	27	25.0%
⑤建設業	9	2	1	1	0	0	13	12.0%
⑥その他	3	1	0	0	0	0	4	3.7%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
合計	96	7	3	1	1	0	108	100.0%
割合	88.9%	6.5%	2.8%	0.9%	0.9%	0.0%	100.0%	

【問1 今期の景況状況について】

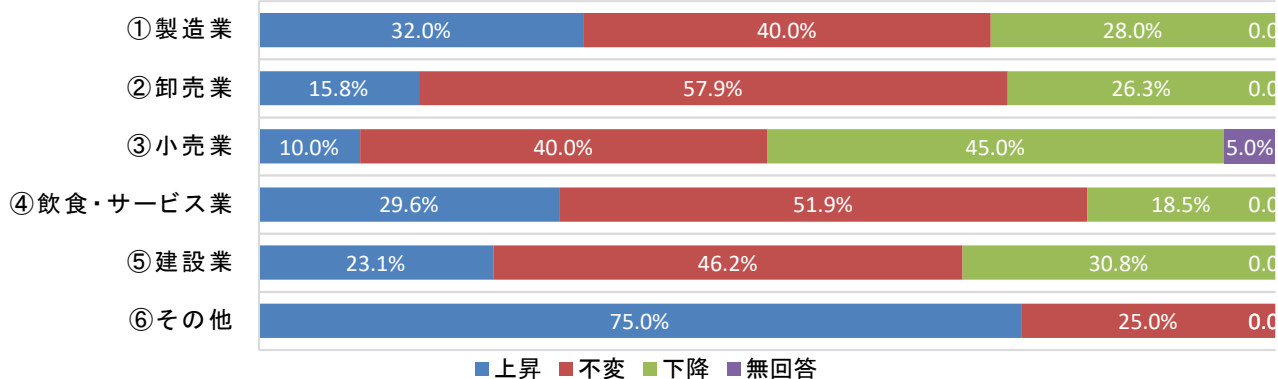
今期の景況状況について、D I 値（上昇から下降を引いた値）で見ると、前期と比較したD I 値が前回調査時（2017年7-9月期）と比べ9.6ポイント増加した▲2.8と、好転傾向に転じている。来期の見通しD I 値については、前期と比較して13.8ポイント減少した▲23.1となっており、来期以降大幅な悪化傾向に転じることが予想される。

業種別に見ると、前期と比較したD I 値は、飲食・サービス業においてのみ悪化傾向にあり、それ以外の業種では好転傾向となっている。来期の見通しD I 値については、全業種において悪化傾向となっている。今期は飲食・サービス業においてのみ悪化傾向となったが、それでも他の業種と比べると、飲食・サービス業の景況D I 値は高く、今後も業種内では高水準でD I 値が推移すると思われる。

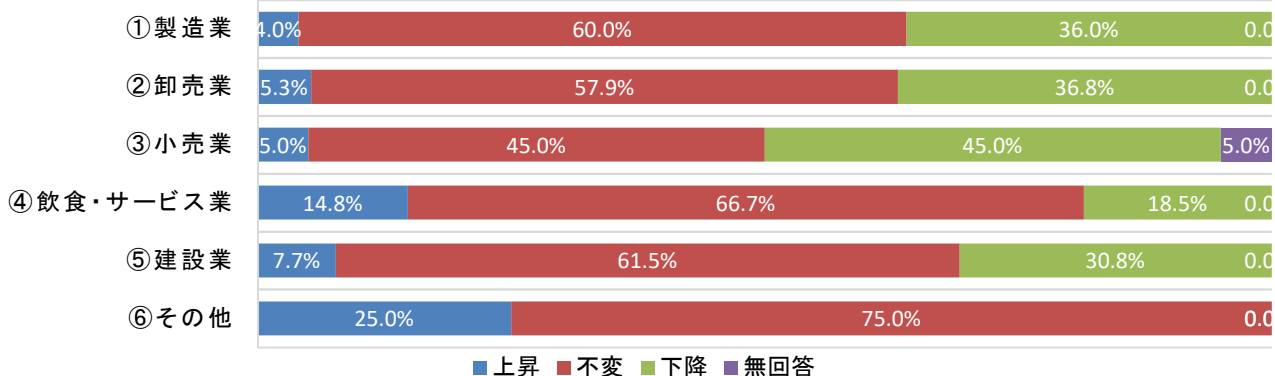
景況D I 値（上昇から下降を引いた値）の推移 全体



Q1 業種別 今期の景況状況 前期と比較



Q1 業種別 今期の景況状況 来期の見通し

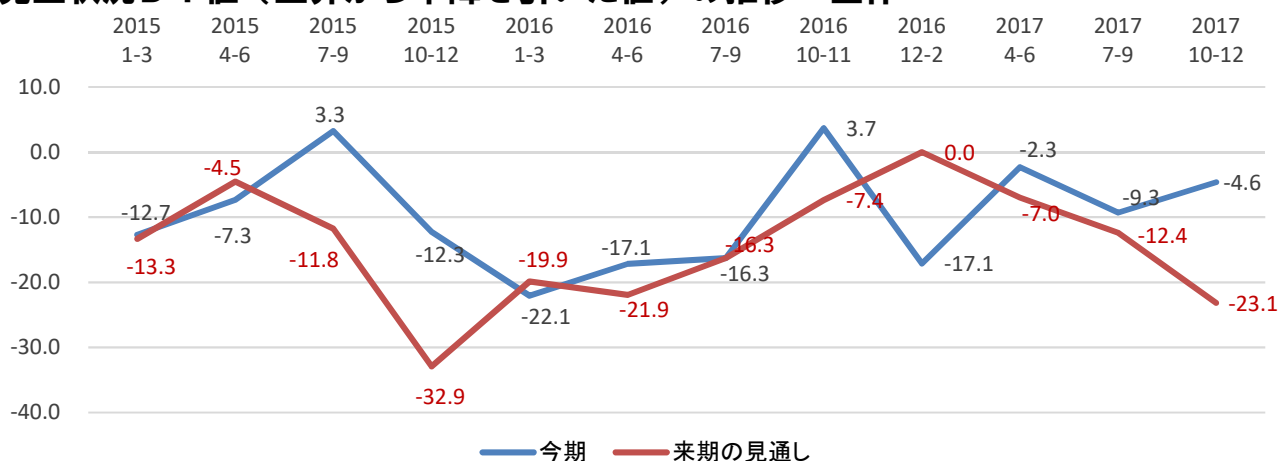


【問2 今期の売上高（受注高・出荷額等）について】

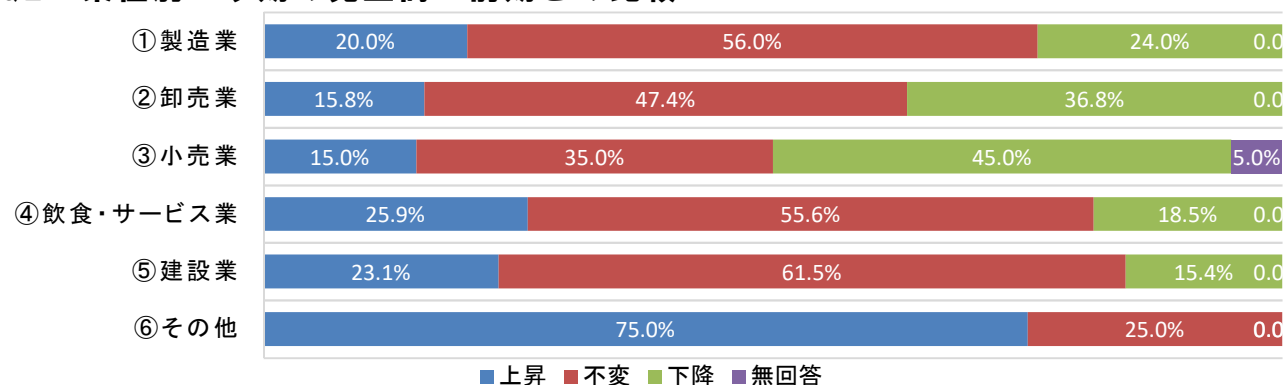
今期の売上高について、D I 値（上昇から下降を引いた値）で見ると、前期と比較したD I 値が前回調査時と比べ4.7ポイント増加した▲4.6となり、景気状況と同じく好転傾向に転じている。来期の見通しD I 値については、10.7ポイント減少した▲23.1となっており、景気状況と同じく、来期以降大幅な悪化傾向に転じることが予想される。

業種別に見ると、前期と比較したD I 値は、製造業、小売業、建設業にて好転傾向にあり、それ以外は悪化傾向に転じている。特に建設業における好転傾向が大きい。来期の見通しD I 値については、建設業においてのみ好転傾向にあり、それ以外の業種で悪化傾向となった。建設業においては前期大きく悪化傾向にあったこともあり、今期はその反動で好転傾向が目立つ結果となった。

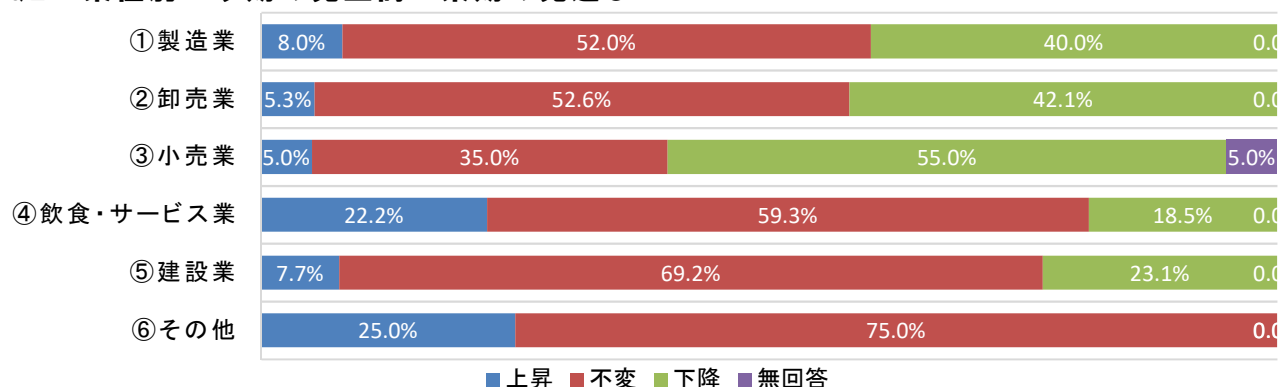
売上状況D I 値（上昇から下降を引いた値）の推移 全体



Q2 業種別 今期の売上高 前期との比較



Q2 業種別 今期の売上高 来期の見通し

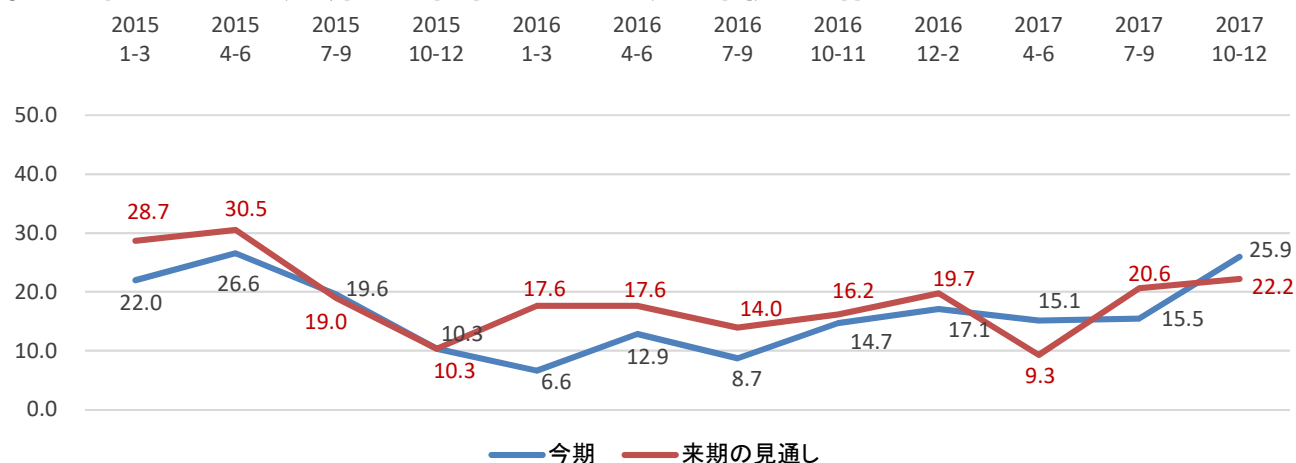


【問3 今期の仕入単価（商品・原材料等）について】

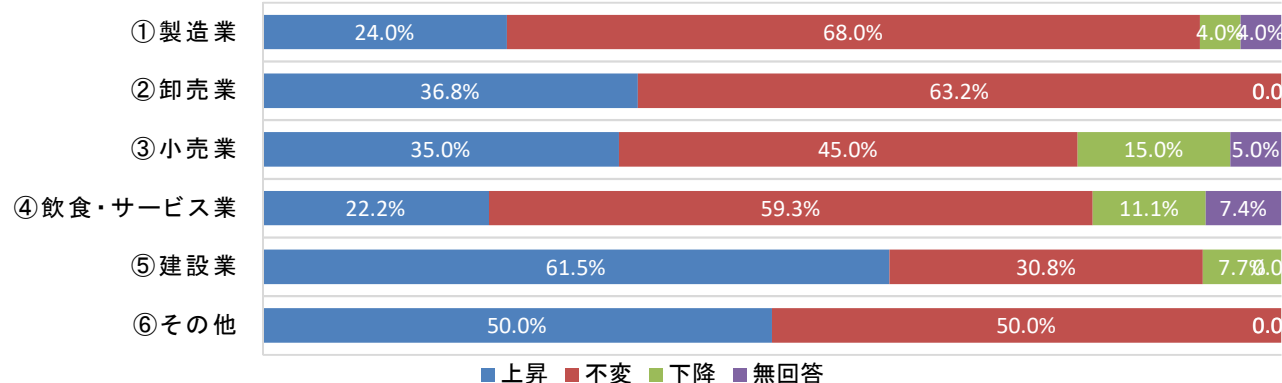
今期の仕入単価について、D I 値（上昇から下降を引いた値）で見ると、前期と比較したD I 値が10.4ポイント増加した25.9となり、前回から引き続き増加傾向にある。来期の見通しD I 値については、1.6ポイント増加した22.2となり、来期以降は緩やかな減少傾向に転じると予想される。

業種別に見ると、前期と比較したD I 値については、製造業、小売業、建設業にて増加傾向となり、建設業の増加傾向が顕著に見られた。また来期の見通しD I 値についても、製造業、建設業において増加傾向がみられ、今期も含め来期以降も引き続き、製造、建設資材の高騰が予想される。

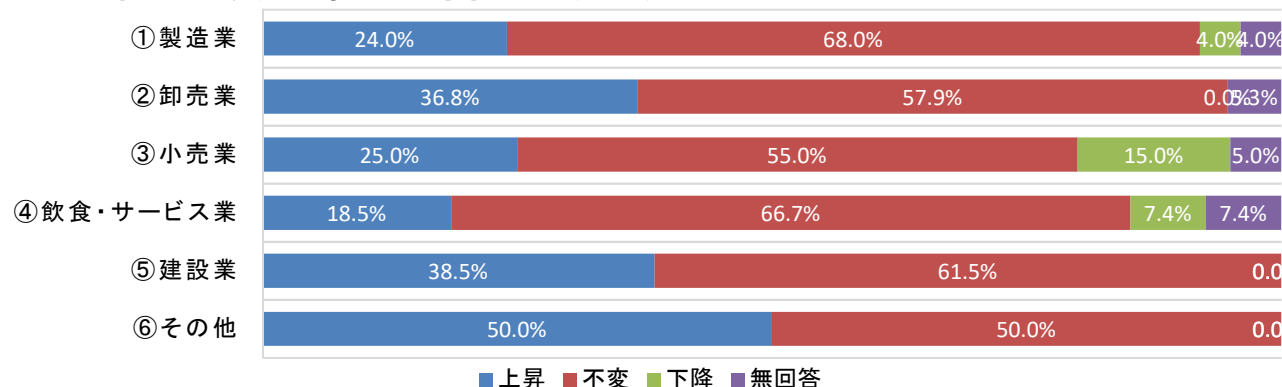
仕入れ価格D I 値（上昇から下降を引いた値）の推移 全体



Q3 業種別 今期の仕入れ単価 前期との比較



Q3 業種別 今期の仕入れ単価 来期の見通し

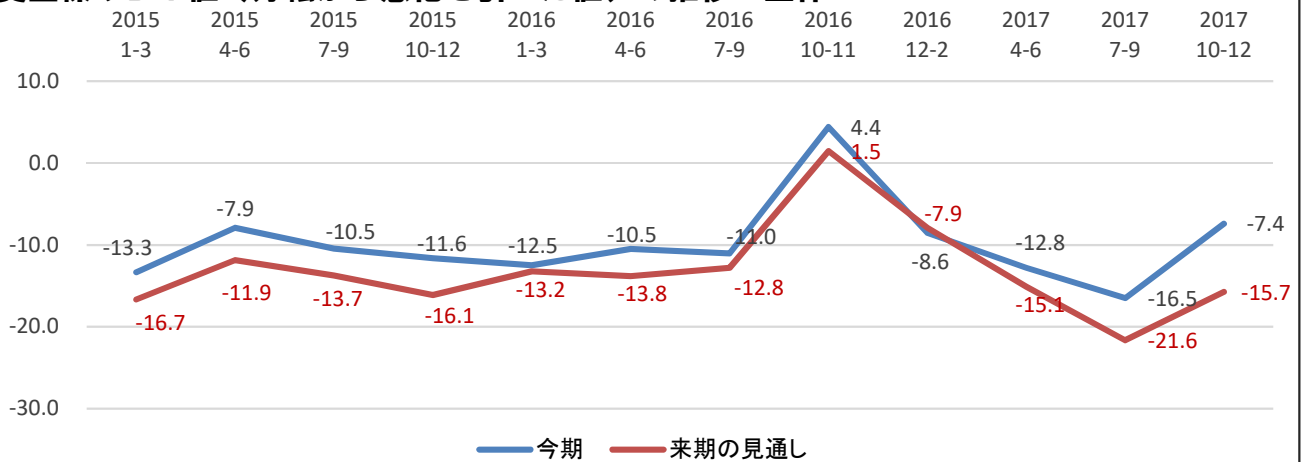


【問4 今期の資金繰りについて】

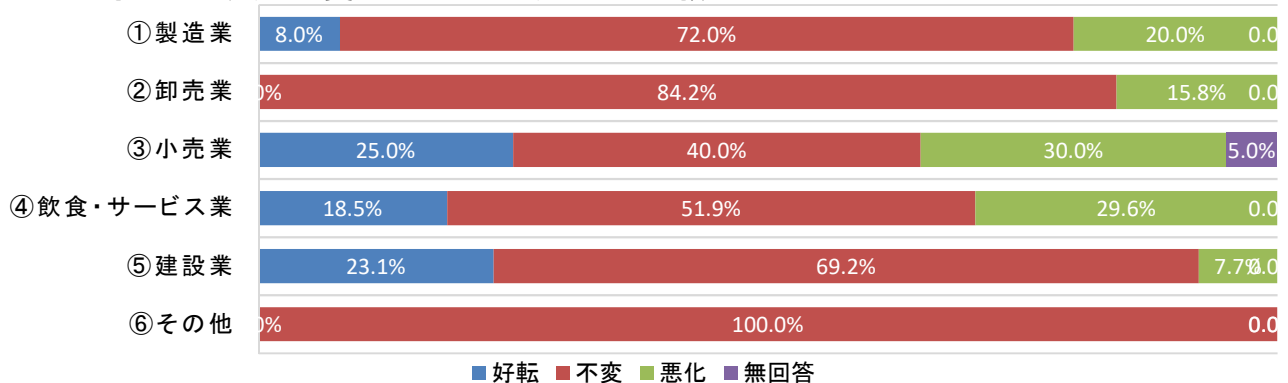
今期の資金繰りについて、D I 値（好転から悪化を引いた値）で見ると、前期と比較したD I 値が9.1ポイント増加した▲7.4となり、今期は好転傾向に転じた。来期の見通しD I 値については、前回調査時と比較して5.9ポイント増加した▲15.7となっており、来期以降、悪化傾向に転じることが予想される。

業種別に見ると、前期と比較したD I 値については、製造業、卸売業にて悪化傾向にあり、建設業における好転傾向が顕著にみられた。来期の見通しD I 値においては、製造業、卸売業、小売業にて悪化傾向となっている。資金繰りについては、飲食・サービス業、建設業における好転傾向が著しいが、前回の著しい悪化傾向からの反動もあり、大幅な好転傾向になったと考えられる。

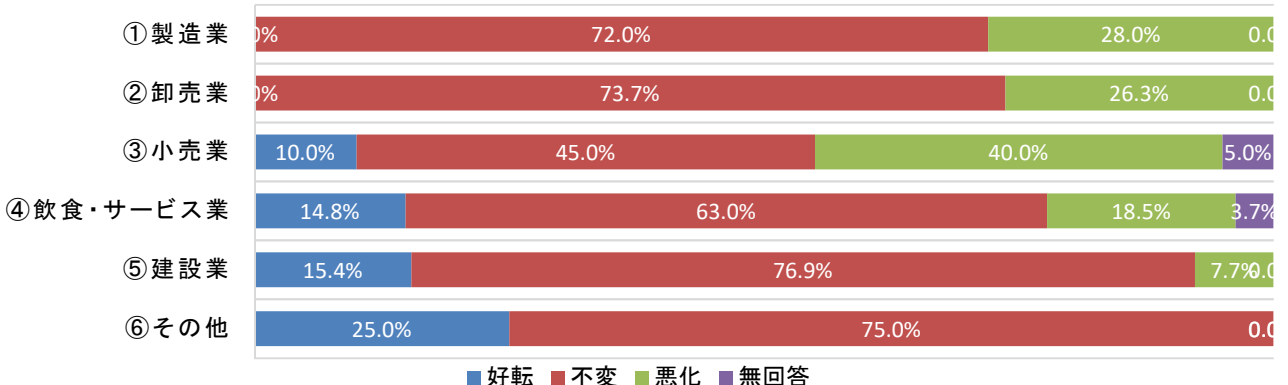
資金繰りD I 値（好転から悪化を引いた値）の推移 全体



Q4 業種別 今期の資金繰り 前期との比較



Q4 業種別 今期の資金繰り 来期の見通し

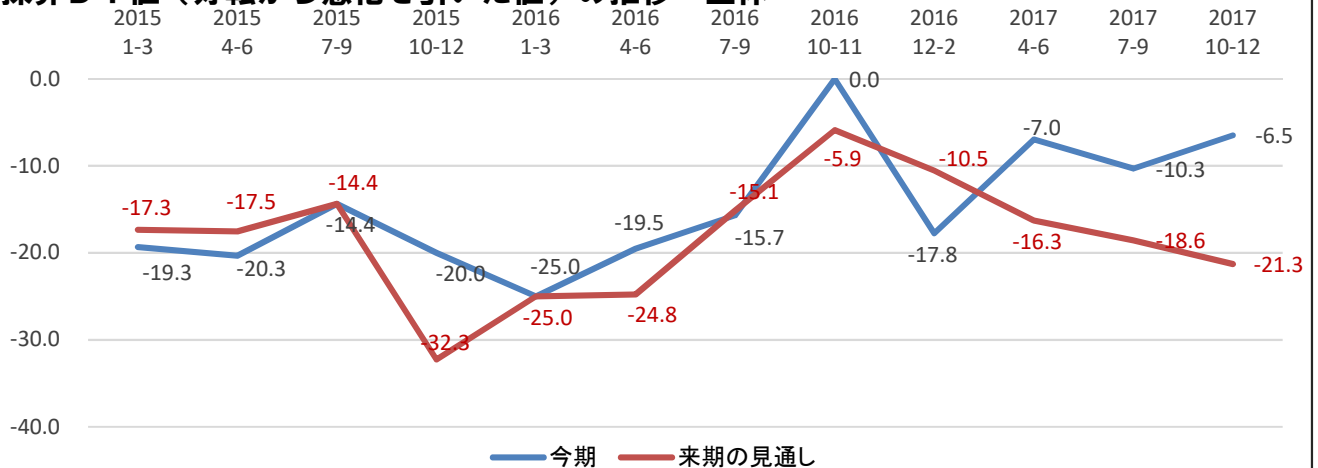


【問5 今期の採算について】

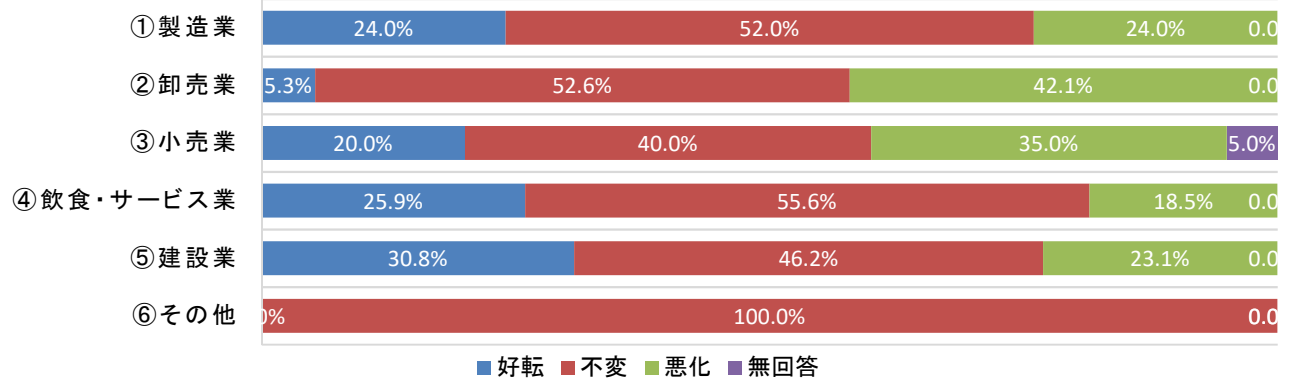
今期の採算について、D I 値（好転から悪化を引いた値）で見ると、前期と比較したD I 値が前回調査時と比べ3.8ポイント増加した▲6.5となり、若干の好転傾向に転じている。来期の見通しD I 値については、4.0ポイント減少した▲21.3となっており、今期と比べると大幅な悪化傾向に転じることが予想される。

業種別に見ると、前期と比較したD I 値は、卸売業においてのみ悪化傾向にあり、来期の見通しD I 値については、製造業において悪化傾向となる結果となった。採算においては、前期に引き続き、卸売業にて著しい悪化傾向が目立った。

採算D I 値（好転から悪化を引いた値）の推移 全体



Q5 業種別 今期の採算 前期との比較



Q5 業種別 今期の採算 来期の見通し

